

東海市太田川駅周辺総合景観監修 ー東西1kmの緑の軸 完成にあたってー

Designing “Green Axis” around Otagawa Station in Tokai City, Aichi Pref.

岡田 憲久 OKADA Norihisa



写真1 東西に1kmの緑地が名鉄太田川駅を貫いて通る。

## 東西 1 km にわたる緑の軸が完成

愛知県東海市では 1992 年より中心市街地整備のための土地区画整理事業、市街地再開発事業、鉄道の連続立体交差事業とともに、名鉄太田川駅の東西約 1 km にわたる緑のネットワーク計画（土地区画整理事業の一つとして）を段階的に進め、2018 年度にすべての部分が完成した。筆者は 2010 年より総合監修者としてランドスケープの設計、施工意匠監理および全体のデザイン調整等を行い、当紀要において「太田川駅前どんでん広場」（第 20 号、2014）、「大田公園」（第 22 号、2016）、「太田川駅 駅前広場（西）、太田川駅西歩道（30m 歩道）、沖縄広場」（第 23 号、2017）を発表してきたが、今回はそれらが「東西 1 km の緑の軸」というつながった空間として完成したため、未発表の「太田川駅東歩道（15m 歩道）」を含め全体を概説する。



写真 2 太田川駅東歩道 (15m 歩道)



写真 3 芝生広場



写真 4 どんでん広場 (50m 歩道)



写真 5 太田川駅西歩道 (30m 歩道)



写真 6 大田公園



図 1 東海市太田川駅周辺図



写真 7 駅前広場 (東)



写真 8 太田川駅自由通路クスノキのタイル壁画



写真 9 駅前広場 (西)



写真 10 沖縄広場



写真 11 大田公園 (2 期)

## どんでん広場・駅前広場（東） 2011・2012・2013年

どんでん広場は名鉄太田川駅の東口に広がり、東海市の新たな玄関、交通拠点、人々の集う空間として駅前広場と幅員50mの歩道を一体整備したものである。



写真12 50m歩道から駅を見る。



写真13 憩いの中心となる噴水と人の居場所を提供するベンチ。



写真14 ケヤキの並ぶ50m歩道は広場となる。



写真15 杜の小径に木漏れ日が落ちる。



写真16 アガパンサスの涼し気な花とベンチ。



写真17 姉妹都市のトルコの小庭。

駅前広場（西） 2015年／太田川駅西歩道（30m歩道） 2016年

太田川駅西口を出ると駅舎、ユウナル東海（再開発施設）とラスパ太田川（商業施設）に囲われたL字形の空間が現れる。駅前広場は東海市芸術劇場のエントランスに面し、幅員30mの太田川駅西歩道には雨天時のイベントのために大屋根が設置された。



写真 18 太田川駅西口を出て駅前広場を東海市芸術劇場へ向かう。



写真 20 駅西口を出ると30m歩道に大屋根が広がる。



写真 21 30m歩道の植栽と立体横断歩道。



写真 22 太田川駅前通り線から見た広場。



写真 19 劇場前の弧を描く広場。ベンチは彫刻家木方立樹氏の協力による。



写真 23 コンボルプルスの花の季節。樹木はカツラ。

## 大田公園 2015・2018年

近隣公園である大田公園は緑の軸の西端に位置し、2015年に日本福祉大学東海キャンパスに接した部分が、2018年に太田川駅前通り線を挟んで芝生広場と多目的広場が設けられた。



写真 24 子ども広場は高低差を利用した遊び場。砦には太陽のモビールが、すべり台には月のモビールが風を受けて回る。



写真 25 テラスは地元半田のレンガを使用。



写真 26 水景、ベンチとスツール。



写真 27 地元の小学生によるモザイク。



写真 28 バラが登るパーゴラは憩いの場所。



写真 29 大田公園から駅へと緑の軸が伸びていく。

## 太田川駅東歩道（15m 歩道） 2017・2018 年

東端に 360m 延びる幅 15m の歩道は緑の軸において最後に完成した。見通しの良い明るい緑道とするために足元には芝生を貼り、雑木や実のなる樹木を左右に植えた。



写真 30 駅のホームから見る歩道。



写真 31 南北の歩道との交点にはレンガで円をデザイン。



写真 32 東側の入り口にはシンボルツリーとして西洋ポダイジュを植樹。



写真 33 春夏秋冬の色タイル。



写真 34 寺院に面した広場とシラン。



写真 35 太田川駅方面を背景としてサクラの咲く緑道を歩く。

## 都市に生きるランドスケープデザイン

人は古代から森を壊し都市をつくってきたが、今日、自然とかけ離れすぎた都市の暮らしにおいて人々は多くのストレスを抱え、今再び都市の中に様々な方法で自然と出会う場を求め、人の知恵と手で再び自然を作りだそうとしている。その知恵の一つがランドスケープデザインである。

この度、太田川駅周辺が都市計画によって改変されていく中で土木設計とも協働し、8年に渡って歩道や広場、公園を設計・監修できたことは、ランドスケープデザインの重要な一つの役割「緑を中心とした都市の憩いの広場づくり」に関わられたという点でも幸運なことであった。この間、東海市の皆さんの並々ならぬ尽力や名古屋造形大学卒業生を始め、様々な人々との出会いと助力があって現在の姿が生まれた。

2011年に植えたケヤキは7年たって生命力を感じさせるまでに根づいたが、そうでない木々もある。人の居場所や緑は絶え間ない管理が必要であり、広場の使い方も含め今後も見守っていききたい。そしてより多くの場でランドスケープデザインが社会的な役割を果たして行けるよう努めていきたい。



写真 36 生き生きとした子供の姿。



写真 37 ケヤキの木陰。ロングベンチで休憩。

### 作品データ

所在地／ 愛知県東海市大田町

発注者／ 東海市都市建設部中心街整備事務所

設計／ 総合監修／岡田憲久（名古屋造形大学）、設計・意匠監理／岡田憲久、田井洋子（景観設計室タブラ・ラサ）、大石浩（エスプランニング）、土木／玉野総合コンサルタント(株)

施設設計／ (株)藤川原設計 [駅前広場（東）：シェルター、公共トイレ / 大田公園：パーゴラ]、(株)大建設 [太田川駅西歩道：大屋根・シェルター、上空通路]、(株)協和コンサルタンツ [立体横断施設]

造形作品／ 工藤潔 [対面の像]、宮城英雄 [シーサー]、木方立樹 [大田公園：水景、太陽と月のモビール、名板、モザイク / 駅前広場：円形ベンチ / 東歩道（15m）：ベンチ]、松室未姫 [陶板・沖縄の海]、宮本めぐみ [太陽のモザイク]、佐野友美 [月のモザイク]、野口直人・中島聖二郎・山田英里・日本福祉大学の学生・大田小学校の皆さん [モザイク]

サインデザイン協力／ 伊藤豊嗣、柳智賢、船橋あつこ（色彩アドバイス）、木方千春

施工／ (株)シンキ・コーポレーション [どんでん広場 1 期、大田公園 2 期、駅東歩道（幅員 15m）1 期]、(株)日東土木 [どんでん広場 2・3 期、大田公園 1 期]、(株)中村土木建設 [駅前広場（東）、駅西歩道（幅員 30m）]、(株)オームラ組 [駅前広場西]、(株)山長造園 [どんでん広場・駅前広場（西）植栽]、(株)西松建設 [大屋根]、坪井工業(株) [立体横断施設]

主要協力会社／ 太平洋プレコン工業(株)、(株)石工事田村組、関ヶ原アトリエ(株)、(株)カメレン、(株)コトブキ、東邦治水(株)、内田工業(株)、(株)日比谷アメニス、(株)井上デンキ工業、(株)藤藤商店、(株)風憩セコロ、(株)虔山

規模・竣工／ どんでん広場、駅前広場（東） [（1.8ha）1 期（2011 年）、2 期（2012 年）、3 期（2013 年）]、大田公園（1.5ha）[1 期（2015 年）、2 期（2018 年）]、駅前広場（西） [（0.24ha）2015 年]、駅西歩道（幅員 30m） [L=100m、2016 年]、駅東歩道（幅員 15m） [1 期（L=210m、2017 年）、2 期（L=150m、2018 年）]

※写真 1：東海市撮影の写真を加工したもの、写真 25, 26, 27, 29：漆脇美穂、その他：景観設計室タブラ・ラサ